



くりみっ子

令和5年1月10日 <第10号>

東近江市立能登川北小学校

<http://www2.higashiomi.ed.jp/notkitasho/>

文責 校長 北村 定治

学校教育目標 共に高まり合い、心豊かにたくましく生きる児童の育成

新年のスタートにあたって

今日10日から、3学期が始まりました。保護者や地域のみなさまには、昨年いろいろな点でご理解とご協力をいただきありがとうございました。県内では爆発的な新型コロナウイルス感染拡大はみられず、小康状態にあるようにもみえます。しかしながら気は緩めず、今までの予防対策を継続しながらのスタートとなりますが、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

始業式では、校長からサッカー日本代表監督森保一監督の言葉を引用し「主体的」についての話をしました。言葉としては難しいので、「自分の意志・判断に基づいて行動するさま」と言い直しました。先生の言う通りすべて行うのではなく、課題や目標を設定して、自分にとって必要なことは何なのかを、自分自身で考えて行動する人になってもらいたいという内容の話をしました。



これらを具現化するめあてが、「くりみのこ」です。本校では、子どもたちに将来大人になってから、よりよく社会で生きていくことを目指して、小学校段階での教育活動を行っています。中でも、テストの点数やIQ（知能指数）などの数値で表せない能力「非認知能力」の育成に力を入れているところです。その具体的な目標が「くりみのこ」にあたります。何度も、保護者のみなさまや地域の方々に発信し、子どもたちにも目指すものとして伝えてきています。また、これらの行動ができた子どもを「くりみっ子賞」として善行表彰し、全校的にこうした行動ができる雰囲気づくりを行っています。

「非認知能力」を育てることの意味やいかに非認知能力が大切なのか、また非認知能力を育てるためにどのように家庭で実践していけばいいのかについては、この「くりみっ子」のコラムとして今までも紹介してきています。家庭や地域のみなさまにぜひご理解いただき、本校教育が地域をあげて子どもたちを育てるコミュニティスクールとしての役割を果たせるよう取組を進めていきたいと思ひます。

- ①…苦勞しよう 汗を流そう 学校づくりに (奉仕の心)
- ②…立派にあいさつ 明るい笑顔 (コミュニケーション)
- ③…みんなで築こう 北小の伝統 (非認知能力)
- ④…伸ばそう学力 つけよう体力 (課題解決能力、非認知能力)
- ⑤…根氣が一番 北小の子ども (非認知能力)

2学期にはくりみっ子賞を受賞した子どもたちは34人を数え、1学期を含めると71名が受賞しています。受賞内容は多岐にわたり、自主的な姿や、主体的な姿などが見られます。この姿が学校全体のスタンダードとなり、どの子も自分のことが好きでいられ、お互いを信頼し合って、社会の役に立てる人間だと感じてもらえるよう、取り組んでいます。



コラム 非認知能力を育てる

実践編：家庭で子どもの自己肯定感を育む 12の方法

①子どもに頻繁に声かけをする

- ・子どもに愛されているという実感をもたせる。
- ・たとえ忙しくて少ない時間だとしても、親は意識して子どもと触れあう時間をもつ。

②子どもの話をよく聞く

- ・子どもが話しているときは、目を見て真剣に聞く。
- ・ながら聞きをすると、子どもは自分の存在は大切でないと感じる。
- ・親が聞くことで、子どもは自分が認められていると感じ、自己肯定感が芽生える。

③親が感情に左右されない

- ・一時的な感情によって、子どもへの評価を変えてしまわないこと。
- ・手を出すのはもちろん、感情的に怒鳴るのは絶対によくない。
- ・どうしても叱らなければならないときは、どうしても叱っているのかを穏やかに説明する。

④子どもに感謝する

- ・「ありがとう」は相手の存在価値を認める法の言葉。
- ・少しでもよいことをしたら、「ありがとう、とっても助かった!」と感謝の言葉を伝える。
- ・親の「ありがとう」で、自分は人の役に立っている、人から必要とされていると感じることができる。



⑤子どもをよく見て、よく褒める

- ・子どもの努力や頑張ったプロセスを褒める。
- ・何かに挑戦して成功したときは、大げさなくらいに褒める。
- ・失敗したときでも挑戦しようとした前向きな気持ちや、そのがんばりを褒める。
- ・一日の終わりに、頑張ったことやどんないいことがあったかを聞くのもよい。

⑥子どもを他の人と比べない

- ・親は子どもをありのままに認める。人との比較で伸びるものではない。
- ・その子をその子として見ること。誰かとの比較で評価しない。
- ・「自分のもてるものを精一杯頑張ったら、それが〇〇ちゃんの一番だよ」と伝える。

⑦欠点を直すより、長所を伸ばす

- ・日本では、何でも均等にできる子がよいとされるが、その子の長所に注目して伸ばす方が重要。
- ・子どもが落ち込んでいるときは、その子のいいところを出させる。
- ・親が意識的に、姿勢、表情、言葉のどこか一つだけでも変えてみる。

⑧子どもに決断させる

- ・日々の小さなことでも子どもに決めさせると、子どもに自信がつき、自己肯定感も上がる。また、やり抜く力も育まれる。
- ・子どもがくじけそうになったときは、どうしてその選択肢を選んだのかを思い出させて応援してあげるとよい。

⑨選択肢を用意して、自分で決める力を育む

- ・自分で決めるという力を訓練するためにも、小学校に上がる頃までは、3つ程度の選択肢を与えて決めさせるのが最適。
- ・自分で選ぶことは、自主性や想像力、好奇心、自信など、様々な力を育む。

⑩やってあげるのではなく、手本を見せて手伝う

- ・教えるのではなく、手本を見せて子ども自身が答えを導く手伝いをすると、自分で答えを見つけたという喜びがあり、非認知能力を育む。
- ・大切なのは、やってあげるではなく、「手本を見せる」「導く」こと。
- ・それがどんなに下手なできだとしても、親がやり直さないようにする。
- ・字の間違いなどは、まず我慢して見守る。それほど重大なことではないのでほうっておく。



⑩子どもの感情が爆発したときは、子どもを責めない

- ・ネガティブな感情を爆発させてしまうことは大人でもあること。
- ・そんなとき、子どもは自己嫌悪に陥っているので、叱るのは逆効果。
- ・抱きしめて落ち着かせ、自分の気持ちを整理させ話を聞いていく。
- ・次への対策を一緒に考える。
- ・これを繰り返すと、自分の感情を正確に知ってありのままの自分を受け入れ、自分の感情をコントロールできるようになっていく。

⑪あるがままの子どもを認める

- ・自分の子どもの本当の姿を知ること。子どもの個性を尊重し、好きなことを応援すること。話をよく聞いて、観察し、子どもを認めること。
- ・たとえ親の価値観や世界観と合わなくても、子どもをありのまま認め、応援する。

親自身の自己肯定感を高める

◎親の幸せも不幸も、子どもに「伝染」する

イギリス・エセックス大学の社会経済研究所のジョン・アーミッシュ教授らが発表した2011年の調査によれば、子どもの満足度は両親との関係、特に母親との幸福度と明らかに関係しています。4万世帯に対して行われたこの調査は、数年にわたって10～15歳の子どもが自分の生活にどれだけ満足しているかを尋ねました。

その結果、両親がいる場合「夫婦関係が円満であること」も大切な要素になりました。母親が夫婦関係に不満をもっている家族では、家族の状況に満足している子どもの割合は55%で、母親が夫婦関係に幸せを感じている家族より20%近くも低い結果となっています。

アーミッシュ教授はこの調査で判明した「最も幸せな子ども」は、両親と一緒に暮らしており（現実には、両親と一緒にだろうがそうでなかろうが、家族が良好な関係を築いていることの方が大切だと思いますが）家族と一緒に週3回以上の夕食を食べ、母親が幸せを感じている家庭の子どもたちであると結論付けました。



母親に付きまとう不安の正体

子育て中の母親は、常に大きな不安と焦りに追われていると感じることがあります。それらを分析すると次のような思いがあげられます。

- ①「自分のために時間を使ってはいけない」という強迫感
- ②「自分はきちんとやれていないのではないか」という自信のなさ
- ③「もっともっとやれるはずだ」という焦燥感
- ④「みなと同じにやれているか」という不安
- ⑤「わたしは誰？」という自己喪失感

頑張るお母さんが陥りやすい「スーパーマザー症候群」自分自身に厳しいあまり、大きなストレスを抱え込んで、完璧主義になり、自縄自縛の状態に陥ってしまいます。

結論から言えば、母親として「完璧」を目指すことをやめることです。100点満点ではなく80点で十分という捉え方をすることで、ほぼ毎日のように「ダメだなあ」と思っていたのが、80点なら達成できる日がたくさんあって、そんなにたくさんさんの達成感と自信が自分の自己肯定感を確実に高めてくれるのです。

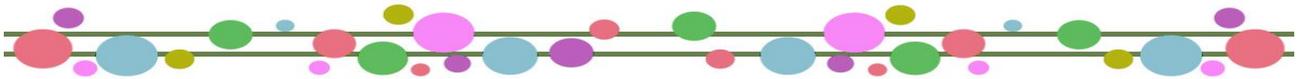


子どもと自分とを受け入れる点でのポイントは

- ★自己肯定感が高いと、何事にも自分から前向きに取り組んでいくことができる。
- ★親が子どもの本来の姿を受け入れず、子どもの存在を否定したり、完璧主義で押さえつけたりとすると、子どもの自己肯定感が低くなる傾向がある。
- ★人と比べるのではなく、昨日の自分と今日の自分を競わせる。
- ★親の幸せも不幸も、子どもに「伝染」する。
- ★母親の幸福度が下がった場合、もっと不利益を被るのは子どもの幸福度。
- ★「やらない」も立派な選択肢。

～参考文献 小学館 「非認知能力の育て方」 ポーク重子著 ～

最後まで読んでいただきありがとうございます。ここに書かれていることはデータを基にした客観的な見解の一つです。子どもたちの将来の幸せのために、学校と保護者地域が連携していく一つの方向として、この「非認知能力」をどう伸ばすかについて、共に考えていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



1月の主な行事予定

1	日	元日
2	月	振替休日
9	月	成人の日
10	火	3学期始業式 11:30 下校
11	水	給食開始
12	木	大きなかぶLaさん 第3回常任委員会 19:30
13	金	委員会活動⑥
14	土	東近江市PTA大会
15	日	メディアコントロールデー 家読の日
17	火	避難訓練(地震)
18	水	フッ化物洗口
19	木	たてわり遊び
20	金	6年生平和学習AM クラブ活動⑥ にこにこ学習 教育相談日
23	月	わくわく元気ッズ練習開始 給食週間(～27日)
24	火	2年食育③ 6年命の学習⑤⑥
25	水	フッ化物洗口
26	木	大きなかぶLaさん スマホ・ケータイ安全教室 ②1、2年 ③3、4、5、6年 諸費用振替日
27	金	校内百人一首大会
31	火	ハッピーソング集会 入学説明会 14:00

*都合により変更になる場合があります

2月の主な行事予定

1	水	メディアコントロールデー 家読の日 フッ化物洗口 交通安全ボランティアさんへのお礼の会
2	木	大きなかぶLaさん ウェルカム能中(6年生)午後
3	金	委員会活動⑥ 教師読み語り わくわく元気ッズ
7	火	6年がん・喫煙防止教室⑤
8	水	フッ化物洗口 6年雅楽体験③ 学校運営協議会 19:00
9	木	3年昔の暮らし体験(能登川博物館)AM
11	土	建国記念の日
14	火	お琴体験 5年⑤ 4年⑥
15	水	校区メディアコントロールデー フッ化物洗口 授業参観⑤ 家読の日 PTA研修会(学校保健委員会)
16	木	大きなかぶLaさん
17	金	にこにこ学習 第3回学校評価委員会 クラブ活動・3年クラブ見学 教育相談日
20	月	卒業おめでとう週間 ～3/1
22	水	フッ化物洗口 6年ホテルニューオウミ
23	木	天皇誕生日
24	金	クラブ活動(最終)
27	月	諸費振替日
28	火	6年ありがとう会前日準備

